

私は毎週日曜日、朝 7 時 45 分から『聖書と福音』というラジオ番組もやっています。先週 1000 回目の放送が終わって、記念の特別講演会をやりました。1000 回に行くのに 19 年と半年かかったんですね。毎週毎週、違う事言うんですよ。これ、めっちゃ大変。最近、言う事がなくなったんです。それで皆さん、何か耳寄りな情報、「これ面白いよ」という情報があったら持って来てください。感謝の言葉だけ、差し上げたいと思います。

という事で、私は創造的な作品を連載している方々に対して、非常に敬意を表したい気持ちがあります。日本にもずっと連載している新聞小説や連続ドラマが色々ありますが、日本の出版界の中で、一番息長く連載されているのは漫画『ゴルゴ 13』。来月で連載 51 年。生まれてない方もおられるんじゃないですか？『ビッグコミックス』という劇画の週刊誌に、毎週毎週違うストーリーを、1 度の休止もなく今日まで続けている。

原作者はさいとう・たかお(斎藤隆夫/1936-)さん。大阪の堺出身。小さい時から絵を描くのが好きでした。お父さんは散髪屋ですが素人画家でもあって、「俺は本当はプロの画家になりたかったけど、やむなく散髪屋をしてるんだ。」本業にあまり身を入れないで、寸暇を惜しんで絵を描いていたのが、夢を捨て切れなくて、ある時とうとう「絵描きになる!」と家族を捨てて蒸発。残されたお母さんが散髪屋さんを切り盛りする事になって、もう貧しい生活をしたそうです。それで、お父さんといえば絵なので、お母さんは絵が大嫌い。さいとうさんが絵のコンクールで「こんな賞を貰った、賞状を貰った」とどんなに言っても、ある時はビリビリと破かれて「私の前に、絵なんか持って来んといて!」

だから、とても荒れた少年時代・中学時代で、反抗の塊でした。テストの時、「教師が教えた事、そのままコピーみたいに書けるか!」と、白紙答案出す事を自分のアイデンティティーにしてたそうです。半分は、分からへんかったんちゃうかと思うんですけど。ある時、白紙答案出して堂々と出て行こうとしたら、「ちょっと待て! お前、自分の責任で白紙答案出すんだったらそれはいい。自分の責任だ。だけど、お前の責任でやるなら、せめて名前くらい書け。名前もない白紙答案は、責任の所在が分からないじゃないか。男なら、責任の所在を明確にするために名前くらい書いていけ。」その言葉に妙に納得して、その先生を尊敬するようになりました。その先生は東郷先生。その名前を主人公にしている漫画が『ゴルゴ 13』です。

『ゴルゴ 13』は、以前もお話した事がありますが、腕利きのスナイパー(殺し屋)の話で、その時々国際情勢を背景にして、実際にあった事件・実際に存在している国・登場人物・有名な政治家、そういうのを登場させながら、仕事人・要人暗殺みたいにやっていく。デューク・東郷。暗号名がゴルゴ 13。ゴルゴはゴルゴダの丘から来ています。「イエス・キリストはゴルゴダの丘で、13 日の金曜日に十字架にかかった。」それは嘘。13 日の金曜日ではなく、ニサンの月の 15 日だったと思いますよ。そういう勘違いはありますが、そういうのをつつくと嫌われます。細かい事は敢えて言いません。

それで、この人、ネタ尽かない。国際情勢は次から次へと変わるので、世界に大きな事件があればあるほど、彼は困らずに描いていく事ができる。「それ、お前も一緒やないか」と思われるかもしれませんが。『ゴルゴ 13』には、2 つほど不思議な事があります。

国際情勢を背景にしているのですが、朝鮮半島を舞台にした話が1回も出て来ない。地球の裏側の中東問題・ヨーロッパ・南米・アメリカ内のゴタゴタ・東ヨーロッパなどはバンバン出て来るけど、日本にとってご近所で、切実で、直接関わってくるような朝鮮半島の事については一切描かない。

もう1つの不思議な事は、ビッグコミックスには連載されたのに、単行本化されたら載ってない話がいくつかある。確かに連載されていた。でも単行本ではスポッポッと抜け落ちている。一体なぜか？

1986年、こんな作品を描きました。ちょうどその時、イランとイラクが戦争中で「イライラ戦争」「イラン・イラク戦争」と言われましたね。

その戦争の最中、「イラク空軍がイランの民間旅客機を撃墜した。イラン人は怒って『何と言う事だ！ サダム・フセインぶっ倒せ！』。でも、国民が激高しているにも拘わらず、最高指導者のホメイニ師が民衆の前に出て来ない。彼はその時、息も絶え絶えの状態、植物人間状態というか（今そういう言葉は使わないそうですが）、とても表舞台に出るような体力はなくて寝たきり。戦争中にそれが明らかになるとイラク側を勢いづかせる事になるので、当時のイラン最高指導者たちは替え玉を使う。すなわち、ホメイニの偽者・影武者をでっち上げて、『こう言いなさい。ああ言いなさい』とやっている」というストーリー。

それを描いてすぐに、ビッグコミックスに載ってすぐにですよ、イラン大使館から外交官と屈強なボディガードが“さいとう・プロダクション”に押しかけて来て、「お前、何という事を描いてくれるんだ！」激烈なお叱りを受けたというか、脅されたというか、怖かったそうです。

が、それを聞きながら、彼は思ったそうです。「読んでんねや。俺の漫画も捨てたもんやないで。日本にある大使館の大使たちも、この本に目を通してるんや」。ちょっと嬉しかった。

もう1つ不思議に思ったのは「劇画の中のストーリーに、なんでそんなに目くじら立てるん？ 聞き流したらいいやん。なんでそんなに焦って、興奮して、激烈な抗議をするの？」

それから3年ほど経った6月3日、ホメイニ師は亡くなりました。

つまり、その中で語られていた会話の内容ややり取りはドンピシャだったんですよ。

2500回の連載中5回、実際の国際情勢を前もって描いて、その通りに的中させたというのが『ゴルゴ13』。だから『ゴルゴ13』で国際情勢を学ぼうと、国際情勢入門のテキストにしている人たちもいるというくらい。なぜそんなに的中するのか？

少年時代に『ゴルゴ13』を読んでいた人たちが商社マンになったり、マスコミに就職して現場に派遣される事があるんです。その場に立って「こんな事が起こってるのか！ でも、こういう噂も聞いた。」

非常に興味深い分析。しかし裏が取れない。裏付けが取れていない事は活字にはできません。

だけど、これを闇に葬ってしまうのは、あまりにも勿体ない。おいしい話やから。

「外れてるかも。でもホンマかも。でも発表できない」というやつは「私の愛読書であった、あのさいとう先生に…」という事で、さいとう・たかおに情報が集まっているんです。

インサイダー情報に基づいて描かれている劇画なので、5/2500 的中するのです。5/2500 って凄い。

なぜ朝鮮半島の事を描かないのか？ 実は朝鮮半島のインサイダー情報はバンバン入っている。

だけど、近すぎるのでヤバイのよ。私みたいにピー（音声消去）できない。これは相当な本ですよ。

因みに、日本全国の散髪屋さんに最も多く置かれている漫画が『ゴルゴ13』。お父さんが散髪屋だった。

たまにその通りに的中する劇画が「これ、読んでおいた方がいいよ」と皆の注目になるのなら、書かれて

いる事が、たまにはではなく 100%全部的中する本があれば、何が何でも目を通しておくべきではないかと思うんです。それが聖書です。聖書は、もちろん道徳の事も書いてあります。祈りについても書いてあります。神とはどんな方かを知る最も正確な資料でしょう。しかし、聖書全体の 27%は預言なんです。

この預言は大きく 3 つに分ける事ができます。

- ①イスラエル/ユダヤ民族/ユダヤ人に関する預言
- ②ユダヤ人以外の諸国/異邦人の国々に関する預言（これが国際情勢の預言と考えていいでしょう。）
- ③聖書の主人公キリスト、神が人類を救済するために送るメシアの預言

3 つの預言は、それぞれ独立しているのではなく絡み合っています。メシアが来るのはイスラエルが存在している時・イスラエルの神殿が建っている時であるとか、イスラエルは諸国によって滅ぼされるが必ず再建されるとか、そのような国際情勢の事が書いてあるのが聖書。

今日はこの聖書預言について、一緒に考えていきたいと思います。

その前に、ここに来る前に地下のコーヒー屋さんトラジャで、阪神 5 連勝したし、準備しようと思って待ってたんです。そしたら後ろで「あの、高原先生ですか?」「高原です。」「いつも YouTube 見えます!」しまったと思って。話している時間ないんです。準備したいから。「あー、ありがとうございます。」「お邪魔しませんから、隣に座っても?」お邪魔せえへんのやったら隣でもええけど、良かったら離れて、みたいな感じで。彼がコーヒーとシュークリームを奢ってくれました。YouTube 出て、ええコトあるなど。でも、皆さんに話す準備があったので 1 分くらい話して、ヘッドホンしてノート書いてて、途中でふっと気づいたらいなくなりました。その方、もしおられたら、後でご挨拶したいと思います。ここからだとはよく分からないので、どうぞ赦してやってください。

昨日 10 月 1 日、中国関連で大きな事が 2 つありました。1 つは天安門広場で、独裁者習近平がハイテク兵器をズラッと、80 分間軍事パレードやったんです。国慶節、共産中国建国 70 周年という事で。アメリカを意識しながら「我々はどんな国にも負けない! くじけない!」と大演説をぶった。

ちょうど同じその日に、香港で何があったか。デモがあって、それを取り締まるために警察が、遂に至近距離から高校生の左胸を撃ちましたよね。皆さんは、その動画をご覧になったんじゃないですか? 銃を持っている手を、高校生が棒みたいな物で払い除けようとした時、狙い定めて左胸に向かってバーン! 「胸が痛い! 病院に連れて行って!」一命はとりとめたようだけど、とうとう実弾を撃った。

香港を考えた時、私には 2 つほど思い浮かぶ事があります。

1 つは、私がまだ若かった時、邱永漢（きゅう えいかん/1924-2012）という人がすごい引っ張りだこ。この方は台湾生まれの華僑です。国民党の悪口を言ったか何かで、台湾におれなくなって香港に行き、最終的に日本に逃れて来て、当時の東京帝国大学で勉強し、やがて作品を書いて直木賞受賞。文才も素晴らしいけど、何といっても事業家。1 人で 17 種類の仕事を成功させ、株の神様と言われた。邱永漢さん、ある一定の年齢以上の方はお分かりになるんじゃないですか? ビジネスホテルを最初に造ったのは彼です。トイレとバスタブが一緒の部屋になっている、あのデザインを考えたのが邱永漢。

もう 1 つ。彼が売り出した商品を 1 回だけ使った事があります。毛生え薬。ありとあらゆる物を試してみても、高価だったんですけど。漢方毛生え薬。そしたら友人が「ちょっと。邱永漢、生えてるやん。」ホンマや思ってね。そんなに効くんやったら、彼が自分でシャーシャーかけて、ブワツとなっているはずや

ん。「なんちゅう事してしもうたんやろ」思って、買わなくなりました。

とにかく、邱永漢は株の神様とか何とか言われて、巨万の富を築き、最終的に住んだのは香港です。1997年7月1日に、香港はイギリスから中国に返還されましたね。その時に一国二制度といって、1つの国の中で、大陸中国は共産主義。だけど香港は今まで通り、イギリス統治時代と同じ自由民主主義体制を50年間やる。中国はそれを承認しました。

「50年後どうするの?」という事については、「そんなの、今決めなくてもいいじゃない。50年後世界がどうなっているか、よく分からないんだから、今の段階で50年先の事をとやかく言わんと、その時に生きている人たちに決めてもらったらいじゃない。50年後の人たちが、大陸中国と同じようになりたいと言ったらそうしたらいいし、今のを延長するのならそれでもいいじゃない。」

邱永漢が言うには「香港は大陸中国にとって、金の卵を産むアヒルである。アヒルを殺すバカがいるか? 香港があるから香港ドルというアメリカドルの裏付けを持っている通貨で、人民元は勝手に中国国内で刷っている交換券みたいなものだから、国際的には意味がない。」だから、中国との貿易には大抵香港ドルを仲介してやる訳です。

「香港を中国が潰すというのは、自分の首を絞めるのと一緒。だから50年後、香港が中国に呑み込まれるのではない。中国が香港になっている。中国が香港に与える影響よりも、香港が中国に与える影響の方がはるかに強力だ! だから私は香港に移り住む。」  
タワーマンションみたいな所に住んだのですが、甘かったね。

だって、一国二制度を50年続けると言って、25年も経ってないのに逃亡犯条例。香港や台湾で犯罪を犯した人を中国本土に引き渡す事ができる条例を作ろうとして。それを撤回したけど、50年、下の根も乾かない内という事で、今大荒れに荒れている。

もう一つ。1997年7月1日、香港返還当日、私は香港にいました。「この歴史的瞬間を現地で、皮膚感覚で経験したい。香港の人たちがどのように見てるのか経験したい。」  
花火がやたらと上がっていたのを覚えています。その花火が悲しそうに見えて、「俺は文学者か」と思いながら見て。今日紹介する聖書について書いてある中国語の小冊子みたいなのを、道行く人たちに配ったのを覚えてますわ。

香港が大騒ぎになる1週間前に、私はある場所、3か所で聖書預言講演会をしたのですが、3か所共、香港でYouTubeを見ている方が来られたんです。そういうのを聞くと「生の情報教えて」と。保険関係の方・ほにやららの方・むにやららの方。ほにやららの方と、むにやららの方は中国人の学者。「中国人の方なんですね」と申し上げたら「いいえ、香港人です」と訂正されました。「私のアイデンティティーは中国人ではありません。私は香港人です。一緒にしないでください」という感じでしたね。

一体何を恐れているのか?

その時、邱永漢さんを思い出したので、「中国にとって香港は金の卵を産むアヒルだから、小さな衝突はあっても、天安門事件みたいに軍事警察や武力警察・人民軍が入って押し潰す事はないでしょう? それは自殺行為だから。そんなバカな事、失敗を繰り返す事はしないでしょ。と私は思いますけど。」

—「高原さん、それはそうかもしれないけど、1つ大きな認識の違いがあると思いますよ。中国共産党は天安門事件を失敗と思ってない。成功したと思っている。」

「人民解放軍が人民を戦車で踏み潰したんですよ。世界中から批判され、袋叩きにされました。」

—「でも結局、中国共産党は守りたいもの、全部守ったじゃないですか。一旦は世界から経済制裁を受け、非難ごうごう、矢面に立ったかも知れないけれど、結局、共産中国の体制はそのまま守られ、ふっと気づいたら今年30年目ですよ。天安門事件は1989年6月4日。今年2019年。30年経って、中国はあるじゃないですか。1989年の時よりも、今の方がはるかに強力ですよ。だから、天安門事件は過去の大失敗じゃなくて、大成功だと受け止めている。高原さんの観点では、あれは失敗だから同じ轍（てつ）を二度と踏まないという事でしょ？ 彼らの発想は普通の人じゃない。」

顔見てたら分かる。習近平は普通の人じゃない。ほんまに。何考えてるんですか？ 怖いわ、あれ。

で、何を恐れているのか？ むにゃららの方は既に、どういう風に言ったらいいのか…当局から…ちょっとここは飛ばします。手繰って行くとフォーカスされてしまう。

何を恐れているのか？ とにかく、共産主義はイスラム原理主義よりも絶対に恐ろしいと思います。共産主義は畏れるべきものが何もない。

その方も仰っていましたが、上海にとうとうロボット警察が出たんです。

皆さんはロボット警察言うたらロボコップ。モノマネのコロケがロボコップの五木ひろし版とかやる。知らん？ 僕はお笑い好きだから、つつい見てしまうんですけど。

ロボコップ。今上海で、24時間体制で走り回ってるそうですよ。このロボコップは4機の広角ハイビジョンカメラと1機の赤外線サーモグラフィ、及び1機のズーム、フルビジョン・ハイビジョンカメラを搭載していて、その台座が1.8mまでリフトアップできる。これが走っていたら360度死界がない。ちょっとでも遭遇したら見逃しません。人工知能搭載の監視カメラを積んだロボット警官が24時間体制で上海を。人工知能搭載だから、映った映像をリアルタイムで警察に送り続けている。

しかも中国の人工知能カメラの凄いところは、音も録るけど、声紋認証までもできる事。

一人ひとりに声の質があるでしょ。自分の声、どう思いますか？ どう思うかと言われても困るけど。私も耳で聞こえている自分の声と録音した声、全然ちゃうわと。録音した自分の声を聞くの、どうですか？ いやですか？ 私、快感なんですよ。違う聞こえ方しますよね。その声紋で本人を特定する事ができる。だけではなく、歩行認識がある。歩行認識とは「カメラ来た！ 顔隠せ！」で、カメラに背中を向けて逃げても、歩き方の癖で本人の身元を識別できる。

この間40年振りに高校時代の友人と再会して、彼女が「今、顔認識不可能やわ」と言ってました。そら、老いてるからやん。だけど、中国の人工知能の識別はすごいですよ。

なぜ、24時間体制でパトロールしなければならないのか？ それだけ恐れてるんです。国民を。人民を。人民が共産党を恐れるように、共産党は人民を恐れている。信頼関係で成り立っているのではない。独裁体制をいよいよ本格化させているのですが、中国の一番の問題は何といても無神論でしょ。畏れるべきものがないんです。だから、人間としてやってはいけないという事が、もう無い。

今技術的には、人工知能による自動運転は出来上がっています。でも、その運転車を中々出す事ができないのは、法律が出来ていないから。

アメリカでも日本でもそうですが、もし自動運転車が事故を起こしたら、誰に責任を問いますか？  
運転していたのは人工知能です。でも、事故を起こした時に、運転席に座っていたのは人間です。  
運転席の人間が責任を負うのか、人工知能のソフトウェアを考えた開発者に責任があるのか、或いは、そういう物を走らせていいと許可した国の責任なのか。このように、万が一の事を全部整えてからでないと、被害者の人権やダメージをどうしたらいいのかとなるので、出来てても前に進めない。

中国は関係ないですよ。バーンと轢かれた時、被害者の立場というか、政治的ポジションが全てだそうです。普通の人なら轢かれた奴が悪い。でも轢かれた人が共産党幹部なら、どんなに不注意で飛び出しても車が悪い。乗っていたのが共産党幹部なら被害者が悪い。法の上に共産党が乗っかっているんです。国の上に共産党が乗っている。

科学技術の世界では、倫理観がない方が進歩のスピードが速い。  
そんな国で去年ですか、遂に HIV 耐性の遺伝子を持った双子の赤ちゃんが産まれたでしょ。  
赤ちゃんが大人になって HIV (エイズウイルス) が入って来たとしても、遺伝子でそれを撃退できる耐性を生まれながらに持っている赤ちゃん。

なぜ、そんな事ができるのか？ 受精卵の段階で遺伝子・ゲノム編集したからです。動物実験じゃない。人間で既に実験しているんですよ。そんな技術があっても、人として、やっても良いのかどうなのか。医療倫理委員会で承認を受けない限り、先進国では前に進まないのですが、中国には倫理観がない。共産中国だから。ブレーキもタブーもないので、そういう国の方が科学技術的には進歩すると。

移植医療技術でも、日本から見るとはるかに後発でしょ。でも、とっくに抜かれてるやん。  
なぜ追い抜かれたかという、生身の人間で実験しているからですよ。  
だから、恐ろしい国の方が、神をも恐れぬ・何をも恐れぬ・命というものに対する畏敬の念を持たない共産党独裁体制の国の方が、いわゆる民主主義や人権を重んじる国よりも、はるかに科学技術が進むというジレンマがあります。

そういうのが香港に来て、香港が呑み込まれてしまったら、一体どうなるんだろう？ その恐怖は日本にいたら分からない。香港での激突は本当に、自由民主の価値観と独裁体制の価値観の激突です。今の国際情勢は、かつての米ソ冷戦のように、米中冷戦時代が進んでいるという事なんです。アメリカが中国に対して、いよいよそれを本格的に今進めています。

ところで、冷戦時代はベルリンの壁に代表されるように、世界が壁によって2つに分けられていました。東側の世界と西側の世界。どちらにも属していないのは第3世界。第3世界は世界的な発言力や存在感はそんなに大きくない。西側自由主義の国と東側共産主義・社会主義の国。  
西側は西側の経済システム、東側は東側の経済システム。陣営が2つにバーンと分かれていたんです。

その時、壁をまたぐ事はできません。またがせないために、人・物・金が自由往来できないように、色んな規制がありました。その内の1つに「ココム」というのがあったの、覚えてはりますか？  
「ココム、知ってますか？」それ、セコムや。  
「西側のハイテク技術を東側に輸出したらあきません」というやつ。日本はそれを破りましたね。

東芝機械ココム事件。東芝の子会社/東芝機械の本社が、確か静岡の方にあったと思います。そこは工作機械の会社で、スクリューや精巧な研磨する工作機械を作っていました。

ソ連がそこにハイテクの研磨工作機械を発注したのですが、ココムの基準に照らし合わせると、これは輸出できない。なので申請書類を書き換えて、旧式の「ココムでも OK」という時代遅れの機械を輸出すると書いた。しかし、実際の中身はハイテク工作機械。それが CIA にばれてしまうんです。なんで CIA にばれたかが分かれへん。不思議やわ。

発覚した時には、物は既にソ連に渡ってた。それから大問題になりました。この機械を使ってソ連の潜水艦のスクリューを研磨したために、それまでアメリカのソナーに聞こえていた雑音が、音がしなくなったんです。スクリューが回転した時にあぶくの音が出ていたのが、日本の最高レベルの工作機械のおかげで、非常に性能の良いスクリューが出来上がり、あぶくが殆ど出なくなって、ソ連の原子力潜水艦の居場所が分からなくなってしまった。

これを捉えるために、アメリカの兵器体系をもう一度一新させなければならない。「その費用はどれくらいかかるんだ?!」という事で、東芝はボコボコに叩かれて。アメリカの国会議員がホワイトハウスの前で、東芝のラジカセを大きな金槌でボカンボカン。作ったのは東芝機械で、東芝電機は関係ないんだけどパフォーマンス。それで確か、実刑判決が出たんじゃないですか？ 親会社の東芝も、社長の首飛んだんじゃない？ 西側は西側のみ。東側は東側のみ。壁があって、それを乗り越える事はできない。

ところが、ソ連が 1991 年の 12 月 25 日クリスマスに倒れました。冷戦が終わった！ ソ連は崩壊した！ 共産中国はあるけど、まだまだ貧しい国で恐れるに足りない。それで、「これからは壁を取っ払って、グローバリズム経済！」というのが出たんです。

グローバリズムとは「グローブ/地球」と「イズム/主義」の合体。グローバリズムは地球主義。つまり、「今まで西側と東側はそれぞれの中だけで巡回していたが、国境を全部取り払って、地球規模で人・物・金を自由往来させて、世界経済を活性化させよう。何と云っても、パイは大きいほど経済効果は上がるから。」

グローバリズムの恩恵を一番受けたのが中国ですが、実はグローバリズムのいいとこ取り。悪用したと言ってもいいでしょう。

例えば、中国が外国で中国企業を設立する時、或いは中国が特殊な技術や特許を持って、外国に支店を作ったりする時、その外国の国は、中国企業が持っている特許を守ります。取り上げたり、偽物を作ったり、そんな事しません。その特許をちゃんと守って、公正な競争ができるようにする。

中国企業がアメリカで上場したなら、株式投資の法律によって、その企業を守る。

中国が外国で儲けたお金は、もう一度中国に持ち帰る事が出来ます。ものすごい恩恵を受けました。

ところが、中国は逆の事は絶対に許さない。日本の企業が中国に行ったら、特許は守られません。やりたい放題。中国内に外国企業が会社を作ろうと思うなら、51%以上の株主は必ず中国でなければならない。一番大きい株主だからという事で、特許を貸せとか、見せろとか。それに自由に撤退できない。撤退する時には、会社の技術も製品も全部置いていけ。そして、中国で稼いだお金は、中国外に持ち出す事ができないんですよ。自分が受けている統一のルールを中国内では適応しない。だから大きくなりますよ。

アメリカは長い間、見守ったというか、見過ごしたというか、大目に見ていました。その理由は「中国は、西側のルールに従って恩恵を受ける事によって感化され、やがて民主主義になるだろう。民主主義国家の繁栄を見て、共産独裁体制ではなく、我々もそうならうと考えを変えるだろう」

と思っていたから。けど、そんなの全然。それで蓄えた力で、20年前より軍事費10倍ですよ。そして、中国のルールを世界に無理に押し付けるようになって行ったわけです。世界の秩序を今変えようとしている。これから、大変な争いになると思いますね。

先程司会者の方が紹介されましたが、サウジアラビアの石油施設がやられました。サウジアラビアのアラムコという石油施設を防衛しているミサイル防空網は、アメリカ・サウジアラビアが何百億円もかけて造り上げた世界で最も高度な防空網です。その防空網がたった数万円のドローンで攻撃されて、1日で、サウジアラビアの日量石油生産量の半分以上に当たる570万バレルが出荷できなくなったんです。世界中の株式が124ドルにガーン下がった。

初めはイエメンのフーシ派がやったと言ってたけど、そうではない。実はイランの巡航ミサイルが撃ち込まれ、18機のドローンでやったという事が分かってます。ミサイルの残骸が残っていたから。そのイラン製ミサイルの射程距離は700キロしかないんです。イエメンからサウジアラビア東部のアラムコ石油施設まで1300キロ。イエメンが持っているドローンで、1300キロも飛ばせるような物はない。だから、イランがやった。

それで何がヤバイかという、何百億円かけた防空網が数万円のマルチコプターで攻撃された事。マルチコプターって、回転翼のローターが3つ以上あるやつ。最近、ネットでも売っている。私、欲しくてたまらないんです。

無人機については中国は世界最先端。そもそも、無人機を世界最初に作ったのはイスラエルです。1973年の第4次中東戦争の時、イスラエル空軍機がソ連製の地対空ミサイルでバタバタ落とされた。何とかしなければという事で、おとりの無人機を作りました。それが最初。このおとりの無人機の技術をアメリカが貰い、大きなドローンを作り出すようになって行きました。

中国は更に改良に改良を重ねて、2017年に（100機か200機か忘れまして。少な目に100にしときます）、それぞれ人工知能を持っている100機のドローンに、一斉に各任務を果たさせて戻らせるという実験に成功しています。つまり100のドローンが、それぞれ自己判断で敵味方を識別して攻撃して帰ってくる。指令を出すだけで良い。その実験に成功している。何百億円かけても、防空網が破られてしまう訳です。

今年の中国の防衛白書で、遂に尖閣防衛という項目が出来ました。尖閣防衛って、ちょっと待てよと。彼らは自分たちが防衛すると言っている。そのためにどうすべきかという中で、遂に五島列島の事まで明記されるようになったんです。中国は尖閣を取って、沖縄を取って、その次に長崎の五島列島まで来ると明記しているんですよ。

そして今年7月に、五島列島五島市の沖の排他的経済水域の海底を、不法に無断で調査して。海上保安庁が「出て行け!」と言うけど、4時間居直って、データを全部持って逃げて行った。もう、そこまで来ている。もしドローンが尖閣・沖縄・石垣島（私、毎年行くんです）に襲来した時、どうなりますか？

新しい戦争の形が始まっています。それは、新兵器の実験場である中東から始まる事が多いんです。それはともかく、東西を分けていたのをグローバルにしようという事で、いいとこ取りして中国が巨大化してしまい、世界中を統治するというか、覇権を握ろうとしているので、アメリカが抑えようとしているのです。

①物の自由移動を抑えて、物に壁を作る。それが関税のアップです。関税が低かったら自由自在。関税の壁を10%・25%・50%と上げれば上げるほど、物が入りにくくなります。今トランプ大統領がやっているのは、グローバリズムの恩恵を中国から取り上げようとしている。

②人の壁。今中国は世界中に、孔子学院というのを作っています。この辺の大学にもあるでしょ。孔子学院は孔子の事を勉強するんじゃない。中国共産党に都合の良い歴史観・国際情勢の見方、中国共産党の宣伝機関です。が、無料で中国語を教えてくれる。そして、孔子学院の講師たちのサラリーは大学が持たなくていい。中国共産党から出るから。それで、一流の中国語の先生たちが来てくれるという事で、日本の私立大学でも受け入れています。

今、アメリカの孔子学院は殆ど潰れました。潰した。トランプが。大学生に政治的プロパガンダを垂れ流すためのものじゃないかという事で、全部潰して行ってます。それだけではなく、中国人の理系の大学留学生はビザが取れません。理系・技術系の大学生は、大学で学んだ事や大学の色々な資料を写して、スパイして、中国に持って行くから。たとえ4年制大学に合格しても、ビザは1年毎に更新しないと駄目なんです。合格しても、ビザが出ないので卒業出来ないという事が起こってる。そして、アメリカのハイテクの学会に、中国の学者は出席できなくなりました。ビザが出ないから。

アメリカで出産したら子供は自動的にアメリカ国籍を貰えるので、中国共産党の幹部たちは、妊娠が分かたらアメリカに行って、そこで出産させる。これを遠征出産と言います。生まれた子供はアメリカ国籍を持って、正々堂々とアメリカで暮らせる。だけど共産党の子弟。トランプ大統領は「これ、あかんやろ。」遠征出産が禁止されます。今まで遠征出産や、アメリカでの活動実績が認められてグリーンカードや国籍を貰っている人たちも、取得手続きをもう一度調べ直して、少しでも怪しいところがあったら剥奪すると言っている。つまり、入れなくしているんです。誰を？人を。人の壁を作っている。信用してない。スパイだと思っている訳です。

③金の壁。中国の企業は中国の法律に基いて、会計監査資料を国外に持ち出す事ができません。「この会社はよく調べたら、真っ赤な赤字かもしれない。或いはバランスシートが取れていない。無茶苦茶な事かも分からない。だけど、そんな会計資料は国外に出せない。それは中国の法律である。」にも拘らず、そういう会社がアメリカの株式に上場しているんです。上場するという事は、アメリカの一般株主に株を買ってもらって、ドルを集金できるという事ですよ。

トランプ大統領と共和党代表を争ったマルコ・ルビオ(1971-)という元大統領候補がいます。彼は「こんなの、おかしいやないか!」と今動き回って、「アメリカで上場している中国企業の株式上場を廃止する」と言って、廃止するための法律を作るために活動している。それ、通ると思いますよ。そしたら、中国企業はアメリカから資金を集める事ができないし、アメリカに進出する事もできないし、中国企業がアメリカのハイテク企業を買収・M&Aする事もできない。そのように、次々法律を作っているのです。

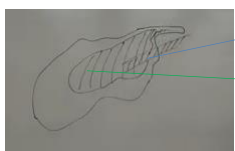
物・人・金の壁を作る。すなわち、米ソ冷戦から米中冷戦。鉄のカーテンから竹のカーテン/バンブーカーテン。それで、かつてソ連がそのような形で倒れて行ったように、お互いに核を持っているから、実際の戦争じゃなく、緩やかに安楽死させるための体制が、いよいよ動き出している。これが、今のアメリカの戦略です。

しかし中国も、もちろん黙ってはいません。先月9月28日にアフガニスタンで選挙がありました。今までずっと独裁体制だったり、治安が悪くて内乱状態が続いていたりで大変です。アフガン戦争でアメリカがタリバン政権を倒して、自由民主主義の選挙…、殆ど行ってません。投票率は非常に低い。特に女性の投票率はすごく低い。タリバンが投票所に来た人たちをテロで倒すから。68か所やられたんですよ。民主主義選挙がないようにと、タリバンが暴れるだけ暴れた。そのタリバンの代表者が、翌日北京に呼ばれました。

アメリカが今一番気にしている事・最大の課題・問題は、アフガニスタンからどうやって出て行くか。アフガニスタンは、もう大変。このアフガニスタン撤退に対して、最後まで反対していたのがボルトン。トランプ大統領はボルトンを切ったでしょ。

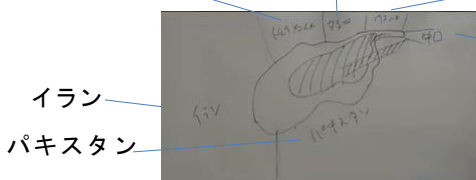
私は去年の天満橋倶楽部で、「トランプ大統領がボルトンを切った時には、外交政策が変わります。それが1つの目安です」と申し上げたんですけど。覚えてはりませんよね。覚えてはりますか？ありがとうございます。切ったんです。ボルトンを。

アフガニスタンはカブトムシの幼虫・サナギみたいな形。アフガンとスタンでアフガニスタン。アフガンは「山の民」。スタンは「国」。トルクメニスタン・パキスタン・ウズベキスタン・タジキスタン、最後にスタンとついているのは国という意味です。アフガニスタンは「山の民の国」。

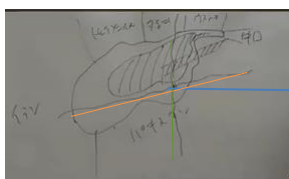


ここにヒンドークシュ山脈が走っている。7500m級です。高いよ。  
それだけじゃなくて、これずっと5000m級の峨峨足る山。昔からアフガニスタンは山岳地帯。非常に高い山々が遮っていて、国中を自由往来出来ない。自然環境のついでによって、それぞれの集団で、互いに交わらないで住んでいる事が多い。

トルクメニスタン・タジキスタン・ウズベキスタン。もっと上がロシア。



ここから中国、ウイグル族が住んでいる所。  
アフガニスタンの下がパキスタン。  
戦略的に非常に重要な所です。



地形的に、ここしか通れないという道があって、北の道(—)と南の道(—)その交差点が首都カブール。変える事ができない。  
これはアジア大陸、東西の十字路です。シルクロードの時代から。

彼らはもちろんイスラム教を信じていますが、イスラム教でもこの国を一つにまとめる事ができなくて、種族毎にコロニーを作ってやっている訳です。

ソ連は、アフガニスタンを握ればイランに入れるし、ペルシャ湾を押さえる事ができるという事で、アフガニスタンを攻略します。ここに王様がいたのですが、1978年に王様を退位させて共産主義政権を作りました。しかし、自分たちの事ばかり考えている。よそから来られるのを非常に嫌がるので、共産主義政権がすぐに駄目になりそうで、それを助けるために、1979年にソ連がバサッと入ったんです。

その時、皆が「共産主義と戦う!」という事で、イスラム戦士ムジャヒディン・ハルク。ムジャヒディンとは聖なる戦士。彼らはソ連と約10年間戦いました。最新兵器のソ連にどうやって勝つのか?

まともにやったら勝てないのでゲリラ戦法。ソ連が嫌気がさして撤退するのを待つという作戦でした。ムジャヒディンの人たちに武器や資金の援助をした国があって、それがアメリカです。かつてアメリカはベトナム戦争（泥沼戦争）で、ソ連にひどい目に遭わされました。アフガン戦争はソ連のベトナム戦争だという事で、アメリカは10年間で40億ドルの支援をムジャヒディンに与えました。が、与える時に、ちょっとしくじるんです。

アメリカは「ソ連は内政干渉してけしからん!」と言っていたので、支援すると自分も内政干渉になってしまう。そこでパキスタンを使いました。パキスタンは、ほんまにどう言うたらいいんやろ、もう大変な国です。直接アメリカが渡したら、これは目立つ。パキスタンとアメリカは同盟関係だったので、パキスタンに資金や武器を渡して、パキスタンからムジャヒディンに分配するようにしました。

一口にムジャヒディンと言っても色んなタイプがいて、自由や人権を守りたいという開明的な人もいるけど、このやり方をしたために、どのムジャヒディンを強くするかという選択権をパキスタンに渡してしまった。パキスタンにISIという軍の情報局があって、アフガニスタンの中で一番過激な所に武器が主に行くようにしたのです。これがやがて、イスラム革命の大きな苗床になるわけですよ。

結局10年間戦って、1989年にソ連は撤退し、それから2年後の1991年の年末に滅びましたね。その時、ムジャヒディンの人たちがどう考えたか。「アラーが味方したから超大国を倒す事ができた。」それで、全能感を持ったんです。「だから、誰にでも勝てるんだ。」

アメリカは、大変なモンスターを作ってしまったという事が分かったので、世界中から集まって来たムジャヒディンたちをすぐにパキスタンに逮捕させて、故国に帰らせようとするのですが、故国も歓迎しなかった。これが、イスラム思想がブワッと広まっていく1つの大きなきっかけになりました。

このアフガニスタンにアルカイダが入ったわけです。2001年9月11日、アメリカ同時多発テロ。アルカイダのオサマ・ビン・ラディンは、アフガニスタンにいたという事になります。アメリカはアルカイダを引き渡すように言ったのですが、タリバンはそれをしなかったので、翌月にはアフガン戦争が始まりました。

2001年10月に始まったアフガン戦争、まだ終わってません。今2019年10月。18年戦争している。あの太平洋戦争が3年8か月ですよ。18年間にどれだけの費用・どれだけの若い命・どれだけの負傷者・そして帰って来た人たちのフォロー・医療保険の負担…。それを考えたら、もうたまらないわけ。トランプ大統領は、これは国益にならないと考えています。アメリカはアフガニスタンにいて、その警察役をやっているだけ。アメリカの国益になっていない。だから出たい。だけど、何もせずにパッと出て行ったら、また元に戻る。それでボルトンは「それはダメだ」と止めたのですが、ここで意見が対立して、彼が切られました。

このように見ていくと、アメリカの中東情勢というのを考えたら、今深入りできないんです。イランであんな攻撃があったけど、アメリカはイランに入りません。アフガニスタンと戦う時も、実際の戦闘部隊はアフガニスタンの北部同盟と言われているアフガニスタン人を使っています。

今イランと戦争しようと思ったら、アメリカの味方になって、あの強力なイランに立ち向かって行く国や民族が中東周辺にいますか？ ないですよ。

イランは今、国の外側のイラク・レバノン・シリア・イスラエルのガザ地区に18万人の兵隊を置いています。また、イエメンにもフーシ派というイランに支援されているグループがいます。日本の陸上自衛隊の兵員が15万人ですよ。イランは未だかつてないような、大きな発言力を持っているのです。

さて、時間が来たので、いつものように聖書を見ていきたいと思います。最初に申し上げたように、聖書は預言の本です。何に関する預言かというと、ユダヤ民族とユダヤ民族以外の民族に関する預言。そして、やがて創造主が人類救済のために送るメシア・キリストに関する預言。

**エゼキエル書 38章**には、ユダヤ民族と、それ以外の民族の両方に関する預言が書いてあります。その内容を簡単に言うと、人類はやがて大きな苦しみの時代に入ります。それは7年間続いて**患難時代**と呼ばれています。その7年間で世界人口は1/4に減ります。今まで経験したどの時代よりも恐るべき時代。地球環境が激変するだけでなく、宇宙環境までもが変わる。天変地異・疫病・食糧危機・戦争・地震など様々な問題が起こります。

それを詳しく描いている書物が、新約聖書の最後にある**黙示録**です。黙示録には非常に詳しくその説明があるのですが、**7年間の患難時代**に入る前に、いくつかの事が必ず実現しなければならない。その1つは、イスラエルという国が再建されていなければならない事。

ここに書かれているのは、「ゴグと呼ばれているロシアが、イランやトルコを率いて、再建されたイスラエルに入って来るが、入るや否や1日にして全滅する。その様子を世界中がリアルタイムで眺める。**エゼキエル書**を前もって知っている人たちは、書かれている通りの事が実現したのを見て、創造主を信じるようになる。」

**エゼキエル 38:2-3** 人の子よ。メシェクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言して、言え。

ゴグは毎回申し上げている通りロシア。メシェクはモスクワの語源。トバルはシベリア地方の中心トバリスクの中心。それを束ねているのはゴグで、マゴグの地に住んでいる。黒海とカスピ海（海の湖で出口がない）の間にコーカサス山脈が走っていて、その上がマゴグ。このマゴグの地から北は全部ロシア。マゴグの地のゴグだから、これはロシア。

**エゼキエル 38:15** あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。

イスラエルの中心エルサレムから、北極点を目指してまっすぐ延長するとモスクワの上空を通過する。エルサレムから**真北の果て**にある町モスクワが首都である国は現在のロシアです。だからゴグはロシア。

**エゼキエル 38:8** 多くの日が過ぎて、あなたは命令を受け、終わりの年に、一つの国に侵入する。その国は剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ、久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる。その民は国々の民の中から連れ出され、彼らはみな安心して住んでいる。

イスラエルの山々に住むようになるこの民は世界中から連れ出され、元いた所に戻ると書かれている。つまり、イスラエル再建の預言です。

いつもここばかり見ていますが、イエス・キリストご自身が「イスラエルはやがて世界中に散らされる」

という預言を語っておられるので、そこをまず見たいと思います。

**ルカ 21:20-24** しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都にはいってはいけません。

これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。

その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。

この地（エルサレム）に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。

人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

これは主語が出て来ない。名前が書いてない。抜粋しているのだから分かりにくいかもしれませんが、イエス・キリストの言葉です。イエス・キリストが十字架にかかる前に、「これから世界で何が起こるのか、何を見ていたらいいのか、どこに注目していたらいいのか。それはユダヤ人を見なさい。特にイスラエルのエルサレムを。」と語っているんです。

これが語られたのは AD30 年ですが、やがてエルサレムが軍隊に囲まれる時が来る。

約 2000 年前、イエス・キリストがいた時、中東は全部ローマ帝国が治めていました。

ローマ帝国の一番西の端は今のポルトガル・スペインまで、地中海沿岸のアフリカの北側と地中海沿岸のヨーロッパ、取り囲むような所は全部ローマ帝国。ローマ帝国は地中海よりも西側には、もうライバルがいません。恐れるべき国はない。

しかし、ローマといえども倒す事ができないライバル国が東側にいたんです。ユーフラテス川の東側のパルティアという国。パルティアは、かつてこの辺りで栄光栄華を誇ったバビロンやペルシアの末裔たちが造った国です。彼らはローマにやり返したいと思っている。

ユーフラテス川よりも東側は、ローマでさえ中々治める事ができませんでした。

パルティアとローマは何度も戦争し、そのたびローマが勝つけど、なぜかトドメを刺す事ができない。戦争には勝つけど、完全勝利まではいかない。なのでパルティアは、いつかローマをやっつけようと、いつも睨み合い。

もしパルティアがローマになだれ込もうとするなら、ユーフラテス突破して最初に握るのがイスラエル。3大陸の結び目だから。イスラエルを握られると、ヨーロッパからアジアにもアフリカにも行く事ができないし、逆にアフリカからヨーロッパに行く事もできない。戦略的要所なんです。

それで、イスラエルにローマの軍隊の中の精鋭部隊を配置し、行政長官を送っていました。

新約聖書では**総督**と言っています。ローマ総督とは行政長官の事。ローマから送られる行政長官/総督はもう無能。どこまで無能やねん！無能！無農薬はいいでしょう。ただの無能！

ユダヤ人は力で押すと何とかなるという事で、次から次へとやって来ますが、そのたびに何らかのトラブルを起こして左遷される形で終わって行く。最後に来た総督は一番の無能でした。

当時、ユダヤ人たちが一番大事にしていたのはエルサレムにあった神殿です。

神殿の中には、金で出来た様々な器具がありました。それらはユダヤ人が神を礼拝するために、どうしてもなくてはならない物ばかりでしたが、最後の総督が「この辺のインフラ整備したいから、神殿から 17 タラントの金を取って行くぜ！」と運び出すんです。「それ、やったらあかんで！」という事をやる。

それで、今まで我慢していたユダヤ人たちが「こんな酷い事されて、もう耐えられない!」と、遂にローマに対して反旗を翻し、戦争を始めました。これがユダヤ戦争。

ユダヤ戦争が起こった時、世界中が固唾を呑んで見守りました。というのは、こんな小さな国が、ローマ言うたら世界帝国、アリの象と戦争するみたいなものですよ。「こんな勝ち目のない戦争、何でやるのか? バカな事して。瞬時に踏み潰されるぞ」と思ったけれど、最初はユダヤが勝つんです。一瞬で勝負が決まると思ったのに、4年経っても決着つかない。

最初のローマ軍隊はエルサレムを包囲するけど、どうしても勝てないので、態勢を立て直すために一旦撤退します。撤退した時、中に閉じこもっていた人たちは逃げる事もできるし、踏み止まって戦う事もできました。エルサレムに立てこもっていた人たちの中で、イエス・キリストを信じていたユダヤ人たちは、今読んだこの箇所を思い出したんです。

**ルカ 21:20-21** **しかし、エルサレムが軍隊に囲まれる**（軍隊は一旦エルサレムを包囲した）**のを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。**

だけど、軍隊に包囲されたらどうやって逃げるん? と思いますよね。この軍隊は、一旦包囲を解いて撤退します。そして軍団長/リーダーをチェンジして、とてつもなく戦争に強い将軍がやって来ました。バスパシアヌス。彼の長男がティトスです。親子で北から南からエルサレムを攻めるようになる。

その前に、この預言を聞いていた人たちは「軍が撤退した今の内に逃げねばならない!この戦争は必ず負けるから。負けるだけではなく『ユダヤ人たちは世界中に散らされる事になる』とキリストの預言が語っているので間違いない。」それで、イエスを信じるユダヤ人たちは全部出て行きました。

ローマ軍はもう1度包囲するのですが、ユダヤ人たちの抵抗が激しい。カエサル（ジュリアス・シーザー）は、ゲルマニア（ブリタニア）と言われている今のドイツやギリシアを攻略するのに2万5千人、ハンニバルはアルプス越えをして4万人でローマを打ち破った。ローマはこんな小さいエルサレムを攻略するのに8万人。それでも勝てない。なので、兵糧攻めをするけど、それでもユダヤ人は中々降参しない。

エルサレムは石を積み上げた城壁に取り囲まれています。そこで最終的に、城壁と同じ高さの土の壁を作り、兵糧攻めで食べ物を無くし、飢えに耐えかねて出て来たユダヤ人たちをすぐに捕まえて、土の壁の上で十字架にはりつけて殺しました。多い日には、1日500本の十字架が並んだと言われています。

そして、もう限界の限界まで来た時、日本の軽自動車くらいの大きさの石を投石器で何度も投げて、城壁に穴を開け、兵隊たちが一気に中に入って行きました。中には武装していない一般の市民がいて、殆ど抵抗する力もなかったのですが、あまりにも長い抵抗だったので、ローマ兵も興奮状態で、60万人以上殺されたと記録が残っています。非常に悲惨な事が起こり、わずかに生き残った9万7千人のユダヤ人たちが世界中に散らされていったのです。それがAD70年。

このAD70年の40年前にイエス・キリストは語られました。

**ルカ 21 : 23-24** **その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。**

